

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

**事業名 農畜水産業の革新的経営環境強化プロジェクト事業費
(R8分)**

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農政課 農業研究推進係 電話番号：058-272-1111(内4027)

E-mail : c11411@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費 補正要求額 19,614 千円 (現計予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支 出 金	分 担 金 負 擔 金	使 用 料 手 数 料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	19,614	8,119	0	0	0	0	0	0	11,495
決定額	19,614	8,119	0	0	0	0	0	0	11,495

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

農業を含む経済のグローバル化が進む中、農畜水産業の振興には競争力の強化が喫緊の課題となっている。

異業種で開発が進む I C T や A I 技術の農業分野への活用が進みつつある一方で、家畜や魚などのDNA（ゲノム）解析技術が進み、これら最先端の技術を活用する事で、農業生産を革新的に向上させ、競争力を強化することが可能となってきている。

また、国が策定した「みどりの食料システム戦略」の具体的な取組には、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現することとしており、先端技術を活用した新たな食料生産システムの構築が期待されている。

(2) 事業内容

本県の特徴ある品目（フランネルフラワー、天下富舞、富有柿、夏秋トマト、飛騨牛、酪農、ボーノポーク、アユ）について、A I 、ゲノム解析技術等の先端技術を活用し、革新的な技術・品種開発を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

本県に特化した品目や技術については、本県で研究開発する必要があるため、県で負担する。

一部、地域未来交付金（地域未来推進型）を活用する。

(4) 類似事業の有無

県として戦略的に取り組むべき研究課題ごとにプロジェクト事業を立ち上げている。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	1,384	調査研究に関わる現地調査、研究会等への移動経費
需用費	14,598	調査研究のための消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕費
役務費	1,457	通信運搬費等
委託料	850	共同研究機関に研究を委託する費用
備品購入費	1,293	調査研究に必要な研究機器の購入
その他	32	調査研究にかかる負担金
合計	19,614	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和8年3月策定予定）では4つの基本方針「新たな担い手の確保」、「潜在力をフル活用した生産強化」、「新たな流通ルートの開拓、販路拡大」、「安心できる農畜水産業と農村の環境整備」を定めている。これに基づき研究開発・地域支援を実施する。

(2) 国・他県の状況

農林水産省策定の「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた具体的な取組に「高い生産性と両立する持続的生産体系への転換」が位置付けられた。

(3) 後年度の財政負担

技術開発には5年間程度必要であるため、本事業は令和10年度まで実施する。

(4) 事業主体及びその妥当性

本県に特化した品目や技術については、本県で研究開発する必要がある。

事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県研究機関が持つシーズと研究資源の総力を結集し、民間企業や生産者、大学等と連携し、令和10年度までに開発技術の実用化・普及定着を図る。

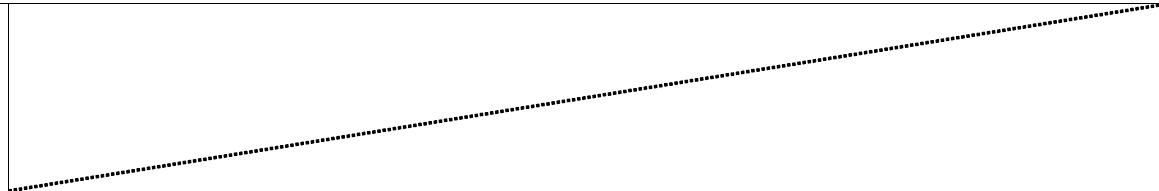
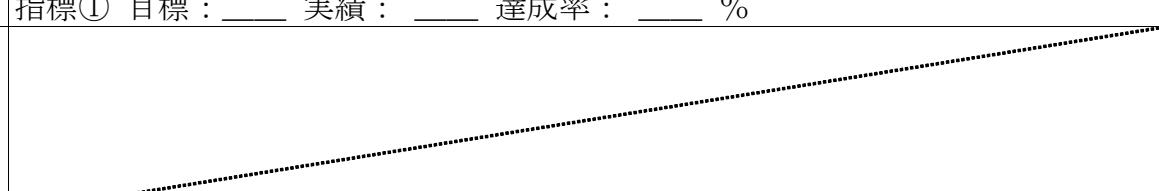
(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
①技術移転の推進		11	11	11	11	-
				※水産研2課題を統合		

○指標を設定することができない場合の理由

--

(これまでの取組内容と成果)

令和 4 年 度	
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和 5 年 度	
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和 6 年 度	カキの輸出に係る品質保持に関する研究では、エディブルコーティングの高い鮮度保持効果が確認され、食味に優れる種雄牛の造成に関する研究では、ゲノム育種化算出のためのデータ収集を行い、脂質の能力に優れているものを選抜するなど、各研究で成果が得られた。
	指標① 目標：11 実績：11 達成率：100 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	農業分野においても最先端の技術を活用し、農業生産を革新的に向上させ、競争力を強化するために、本事業の必要性は高い。
-----------	-----------------------------------------------------------

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり
2：期待どおりの成果あり
1：期待どおりの成果が得られていない
0：ほとんど成果が得られていない

(評価) 2	令和6年度から5ヵ年計画で実施しており、国や民間事業者と共同して、実用化を見越した研究を進めていることから、本事業の有効性は高い。
-----------	-------------------------------------------------------------------

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価) 1	試験計画や進捗状況、研究成果について検討を図るとともに、必要に応じて、関係機関（生産者団体、大学等）と連携することで、技術確立の効率化に努めている。
-----------	----------------------------------------------------------------------------

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

農畜水産業のさらなる振興のためには、異業種で開発が進むＩＣＴやＡＩ技術等、最先端の技術を活用することにより、競争力を強化することが喫緊の課題である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
新しく開発する革新的な技術を現在の栽培体系や生産体制にスムーズに取り込んで頂くため、普及機関と連携した技術移転に取り組む必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	